

## 「第3次河北町子どもの読書活動推進計画（案）」に対する意見について

No.	意見概要	意見への教育委員会の考え方
1	<p>ブックスタート事業で絵本を家庭に贈呈しているのであれば、本を贈るだけでなく、親子で絵本を楽しめる時間も一緒に贈呈してはいかがでしょうか。（河北町では育児中の家庭の家事をお手伝いするファミリーサポートのような事業はありますか？もしありましたら、読書のためにファミリーサポートを活用してもらおう等）</p>	<p>親子で絵本を楽しめる機会として、中央図書館で毎月おはなし会・ぴよぴよおはなし会を開催しています。以前は、乳幼児健診の待ち時間を利用して、図書館スタッフが絵本の読み聞かせを行っていましたが、コロナ禍で密を避けるために、読み聞かせは中断し、現在も行っていません。現在は、健診参加者の年齢に応じた本を用意し、手に取って親子で読めるようにしています。なお、読み聞かせの再開については今後検討していきます。</p> <p>河北町では、家事のお手伝いや代行は実施していませんが、どんがホール内にファミリー・サポート・センター（担当課：こどもみらい課）を設置し、保育施設への送迎や預かり等を行っています。また、NPO法人河北子育てアドバイザーセンター（ひなのうち）でも子ども一時預かりを実施し、子育て家庭を支援しています。いただいたご意見は担当課と共有させていただきます。</p>
2	<p>図書館を積極的に利用してもらおう方策として、健康福祉課で実施している「健康マイレージポイントカード」のようなものを図書館でも作成し「読書マイレージ」を貯めて記念品をもらう、のような企画はいかがでしょうか（子どもだけでなく、大人も参加可）。</p>	<p>「読書マイレージ」と類似した仕組みとして、中央図書館のおはなし会に参加した子どもにはカードを渡し、参加するたびにそのカードにシールを貼って集められるようにしています。シールを集めることで達成感を感じられ、再度おはなし会に参加しようというモチベーションアップになっているようです。大人も対象とした「読書マイレージ」に関しては今後検討させていただきます。</p>

## 「第3次河北町子どもの読書活動推進計画（案）」に対する意見について

No.	意見概要	意見への教育委員会の考え方
3	<p>親も読書を積極的に楽しむために、図書館の大人用の蔵書をもう少し充実させてはいかがでしょうか？（先日、中央図書館に行った際、文庫本の小説があれば借りたかったのですが、文庫本が見当たらず…大人の蔵書をもう少し充実させてほしいと個人的に思いましたので、スペースや予算の問題もあるかと思いますが、ご検討いただけると幸甚に存じます）</p>	<p>町中央図書館は、本を受入する際は最新の単行本を受入することを基本としており、文庫本は単行本に比べ発行が遅れる場合が多く、また耐久性も単行本よりも低いため、町中央図書館では基本的に受入していません。</p> <p>令和6年4月1日時点での町中央図書館における町民1人当たりの蔵書数は7.08冊であり、県内の図書館の平均である3.77冊よりも多く、大人用の蔵書も充実しております。また、町中央図書館にご希望の所蔵がない場合は、連携する他図書館の所蔵を検索して取り寄せする相互貸借サービスや利用者が情報を探し出すためのサポートとしてレファレンスサービスを行う等、利用者の利便性の向上を図っています。必要の際は図書館スタッフにお声がけください。</p>

## 「第3次河北町子どもの読書活動推進計画（案）」に対する意見について

No.	意見概要	意見への教育委員会の考え方
4	<p>子どもは大人の姿を映す鏡のようなものであり、子どもの読書離れの要因は、“楽しく読書をする大人”の減少にあります。留意しなければならないのは、SNS等のデジタルツールや各種メディアは“単なる道具やコンテンツ”ということです。現代のメディアは可処分時間の奪い合いで経済活動がおこなわれており“読書”はその奪い合いの戦いに敗れただけに過ぎません。つまるところデジタルツールやメディアを敵視する他責的思考は間違いであり、本当に取り組むべきは“読書”の質を高め楽しさをいかに啓蒙するか、なのです。</p> <p>子どもに本を押し付けて“読書をさせる”活動はかえって読書離れを助長することになりかねません。注視すべきは学校ではなく地域であり、“楽しそうに読書をする大人の姿と子どもが地域で接する環境”をいかに増やしていくかが大切です。読書すべきは子どもではなく、まずは大人なのです。とはいえ“大人の読書推進計画案”とするわけにはいきませんので、せめて大人も一緒に読書に取り組む施策を増やすのはいかがでしょうか。</p>	<p>読書の楽しさをいかに啓発していくかが重要であること、子どもに本を押し付けて「読書をさせる」活動はかえって読書離れを助長することになりかねないことはご意見のとおりと思います。これらを踏まえ、子どもが「主体的に」本に親しむ環境を整えていく必要があるという考えのもと、第2章「柱1 家庭・地域・学校等を通した社会全体での子どもの読書活動の推進」（計画（案）P9～13）のように記載しております。なお、本計画（案）は、デジタルツールやメディアを敵視するような他責的思考での作成はしていません。</p> <p>また、ご意見のとおり、子どもの読書離れの要因の1つには「楽しく読書をする大人」の減少にあり、「楽しそうに読書をする大人」「楽しそうに読書をする大人の姿と子どもが地域で接する環境」を増やすことは大切だと考えますが、同時に難しい課題であると捉えています。子ども（特に乳幼児）への読み聞かせは非常に重要であることから、保護者等の大人に読み聞かせや読書活動の大切さを啓発等しながら、まずは子どもの読書活動を推進します。大人の読書活動推進は別途検討させていただきます。</p>
5	<p>[計画（案）P10] 関係機関と連携して具体的に何をするのかお聞かせください。</p>	<p>家庭における読書に親しむ環境づくりを推進するため、関係機関と連携し、啓発チラシの作成及び設置、子育て世代の大人と接する職員等による声かけ（会話の中での周知）をすることを現時点では考えております。他の取組みも引き続き検討していきます。</p>

### 「第3次河北町子どもの読書活動推進計画（案）」に対する意見について

No.	意見概要	意見への教育委員会の考え方
6	<p>[計画（案）P 1 1]</p> <p>地域に対して読書を推進するのであれば、まず高校生や大人が楽しさを体感できる機会をつくるべきです。特に、幼児から小学生は親子がセットです。</p>	<p>子ども（特に乳幼児）は、読書習慣を身に付け、生涯にわたる読書能力を形成するうえで重要な時期であることから、計画（案）P 1 1のように記載しています。</p> <p>大人が楽しさを体感できる機会につきましては、別途検討させていただきます。</p>
7	<p>[計画（案）P 1 2]</p> <p>ボランティアとは自らの意思でおこなう自主活動であり、人手不足といった問題は本来ありえない話です。活動に継続性や必要性があるものそれらは”事業”であり、活動者に対する町からの経費支援や、法人等への事業委託をしなければ持続可能性は低いと言わざるを得ません。</p>	<p>計画（案）P 1 2の6段落目を「一方で、ボランティアの課題として、持続可能なボランティア体制づくりがあり、活動メンバーの不足や高齢化、既存の団体に若い世代は入りづらい、男性が少ないといった側面が挙げられます。」という記載に修正します。当該ページに記載のボランティアによる活動の継続が困難となった場合には、事業化を検討する必要があると考えています。</p>
8	<p>[計画（案）P 1 3]</p> <p>河北町から本屋が失われたことで、現金決済しかできない子どもの本へのアクセス性が大きく低下しています。学校や図書館はその受け皿として、大人が読んでほしい本ではなく、子どもが読みたい本をもっとヒアリングし、ライトノベル等を幅広く網羅した形にすべきです。</p>	<p>第2章「柱Ⅱ 子どもが読書に親しむ機会の提供と施設、設備その他諸条件の整備充実」（計画（案）P 1 4～1 5）に記載のとおり、ニーズにあった蔵書を整備します。</p> <p>ご意見のような現状があることも鑑み、ニーズの把握につきましては、より広くヒアリングできるよう努めます。</p>

「第3次河北町子どもの読書活動推進計画（案）」に対する意見について

No.	意見概要	意見への教育委員会の考え方
9	<p>[計画（案）P13]</p> <p>”情報を見つけ出して読み取り活用する力”の増強は読書活動ではなく、インターネット等の検索や、広告を見分ける等の情報リテラシー教育で巻き取るべきです。</p>	<p>学校図書館には、①児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能 ②児童生徒の学習活動を支援したり授業の内容を豊かにして理解を深めたりする「学習センター」としての機能 ③児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」の機能があります。</p> <p>学校図書館は、調べ学習の場としても活用されていることから、情報センターの機能により、必要な情報を見つけ出し読み取り活用する力を指導していくという趣旨です。</p> <p>ご意見の方法につきましても、教育課程全体を通じて取り組みます。</p>